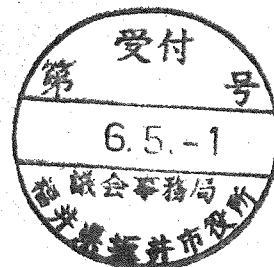


別記様式2-2号



視察研修等報告書

令和6年 4月 30日

坂井市議会

議長 辻 人 志 殿

会派名 創政会

代表者名 田 中 哲 治

1. 日 時 令和6年4月15日(月) ～ 4月16日(火)

2. 研修先 (1) 軽井沢町役場
(長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉 2381-1)
(2) 軽井沢町農産物等直売所 軽井沢町発地市庭
(長野県北佐久郡軽井沢町大字発地 2564-1)

3. 研修内容 (1) 軽井沢町における通年議会の取り組みについて
(2) 軽井沢町農産物等直売所 軽井沢町発地市庭の取り組みについて

4. 参加者 田中哲治 廣瀬陽子
同行議員 政新さかい 辻人志議員
政友会 三宅小百合議員
日本共産党議員団 畑野麻美子議員

5. 内容詳細

○軽井沢町の概要

1) 人 口 21,510人 (令和5年1月1日現在)

2) 世帯数 10,729世帯 (令和5年1月1日現在)

3) 面 積 156.03km²

4) 概 要 町全体が別荘地として整備され、現在では町内における別荘や保養施設数が16,000軒超で、持ち家数の約1.5倍以上になっている。

また、別荘地であるとともに、三大都市圏や海外などからの観光客が訪れる一大観光地でもある。(令和元年の観光客は約840万人のうち2割がインバウンド)近年は、静養や観光目的以外に、ワーケーションや移住先としても大きな関心が寄せられている。

現在、定住者が増えている理由に、新たに開校した学校やリモートワークの影響がある。

◆ 1 日目（1）軽井沢町における通年議会の取り組みについて

長野県軽井沢町議会では、平成 21 年 10 月に議会改革検討特別委員会にて通年議会実施について検討していくことを決定し、平成 23 年より導入が開始されている。

通年議会導入についての経緯や、通年議会の具体的な流れなどの説明を伺い、意見交換を行った。

議会が主体的・機能的に会議を開くことができる唯一の手段が通年議会である。

通年議会の導入で委員会活動が活発になっている。定例以外の委員会は理事者に説明を求める委員会ではなく、任期中のテーマを設けて活動し、町への提言を行うなどの活動が行われている。

導入した一番の要因は、議会の持つ権利機能を取り戻すことであり、議会が主体的に機能的に会議を開くところ出来るメリットを生かし、議会の充実・活性化を図り、住民からより信頼される議会を目指し、さらなる住民福祉の向上を図ることが出来ると考えている。

◆ 2 日目（2）軽井沢町農産物等直売所 軽井沢町発地市庭の取り組みについて

軽井沢発地市場は、農業振興、6 次産業の推進、農産物等のブランド化、地域活性化を目的に設置された。軽井沢町は、人口約 2 万人に対し、シーズン中(春～秋)には 10 万人に増える。関東からのお客様が多く日帰りエリアになっており、宿泊してもらうことが課題である。

店舗での販売だけでなく、オンラインで軽井沢町内への宅配サービスをヤマト運輸と連携して行っている。ペンションやレストランなど事業者と生産者をつなぐネットワークとして、交通弱者に向けた個人での利用として会員を募集し実施している。

坂井市との今後の連携について、「豊穰のめぐみ魅力フェア」や坂井市での「軽井沢フェア」など相互の交流を進展させたいと考えている。

6. 所見・感想等

1 日目（1）軽井沢町における通年議会の取り組みについて

（田中議員）

○軽井沢町における通年議会の取り組みについて

軽井沢町議会は、開かれた議会、信頼される議会を目指すため、平成 21 年 6 月に議会改革検討委員会を設置し、同年 10 月に「通年議会」実施についての検討を決定した。平成 22 年 3 月の第 1 回定例会から試行による通年議会制への移行を経て、平成 23 年から通年議会を実施している議会です。

通年議会導入後のメリット・デメリットについて、主なメリットとしては、①開会期間中は本会議をいつでも議会主体でできるため、議会の主体的な運営ができる。②公務災害等の補償が通年で適用される。」などである。

デメリットが見当たらない点では、16 人の議員で 15 人が通年議会制からの議員であるため、以前の議会制度はわからないということです。

本市議会も（議会運営委員会）通年議会について取り上げられましたが、今後、議会改革特別委員会等を設置し、他自治体等での調査研究をしていく必要がある。

(廣瀬議員)

通年議会のメリットとして、専決処分がなくなることや委員会活動が活発になることがあげられた。平成23年から導入されており、議員側も当たり前のことであり、デメリットは感じていないとのことであった。

通年議会について、これまでも研修などで話を聞いていたが、どのように会議スケジュールが進行していくのかなど不明確な部分も多く、イメージしにくかった。だが今回の視察で具体的な会議のスケジュールや流れが把握できた。今後は本市でも検討する機会があってもよいのではないかと感じた。

また軽井沢町議会では、庁内の情報をまとめて掲載された「議員ハンドブック」があり、ひと目で町内の情報を確認できるようになっていた。坂井市でも冊子にする必要はないが、タブレットで情報検索では見つけにくい部分もあるため、まとめたファイルを本市でも検討するとよいのではないかと感じた。

2日目 (2) 軽井沢町農産物等直売所 軽井沢町発地市庭の取り組みについて

(田中議員)

○軽井沢町農産物等直売所「軽井沢発地市庭」の視察研修について

農産物等直売所は、農業振興・6次産業化の推進・農産物等のブランド化・地域の活性化を目的に平成28年4月に軽井沢町農産物等直売施設「軽井沢発地市庭」竣工した。

当初、野菜農家の方は「この地にお客が来るのか心配していたそうです。」野菜農家には、売り場面積にあった野菜を持ち込んでいただくシステムをとっている。

現在、2万人の町が季節（春から秋にかけて）になると10万人の町になるようです。また、高くても高品質の商品が売れるとのこと。（お客の約7割が首都圏及び近県からの富裕層）

物産コーナーでは、福井県から「越前市のこうのとりブランド」として、無農薬栽培コシヒカリ・お酒などのコーナーがある。

軽井沢発地市庭の池田施設長に、坂井市の物産コーナー設置をお願いし、考えてみるとのことです。

軽井沢発地市庭実績

年度	来場者数（人）	売上額（千円）
平成28年	246,000	414,466
令和1年	262,000	566,477
令和4年	256,000	666,065

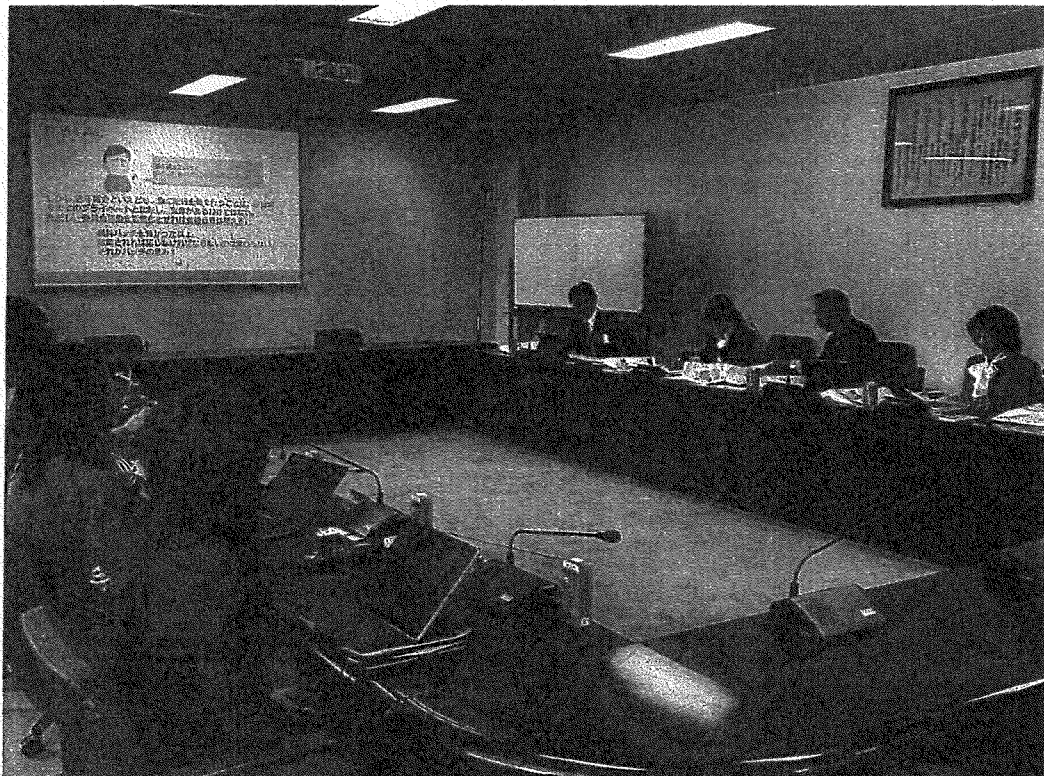
(平成28年対比で来場者104%、売上額161%)

(廣瀬議員)

軽井沢発地市場の令和4年度売上は、オープンの平成28年度対比で、農産物で169%、土産品/加工品で196%と売り上げを伸ばしている。地元の農産物などを「軽井沢霧下野菜」「軽井沢発地そば」とブランド化し、付加価値をつけて販売していることで効果が上がっていると考える。これまでも2回に渡り、坂井市豊穰のめぐみ魅力フェアを開催しており、お客様からも満足度が高い施策となっていた。これからも発地市場に坂井市コーナーを設置するなど、連携した取り組みを行うことで、軽井沢町の方々だけでなく、関東圏より観光に来られた方々へも坂井市の認知を高めることができるのではないかと感じた。

7. 添付書類

1日目 (1) 軽井沢町における通年議会の取り組みについて





2日目 (2) 軽井沢町農産物等直売所 軽井沢町発地市庭の取り組みについて





会派内供覧